

平成27年度
(第51期)
事業報告書

自 平成27年 1月 1日
至 平成27年12月31日

公益財団法人 国立京都国際会館

目 次

はじめに	・・・P. 2
I. 法人の概況	・・・P. 3
II. 事業の概況	・・・P. 4～20
III. 理事会及び評議員会等に関する事項	・・・P. 21～25
IV. 庶務事項に関する事項	・・・P. 26～27
V. 収支状況	・・・P. 28

はじめに

“Beyond 50th Anniversary” ～50年の歴史を誇りに～

平成 28 年 5 月 21 日、国立京都国際会館は創立 50 周年を迎えます。

昭和 41 年のオープン以来、開催された会議は、国際会議約 1,950 件、国内会議約 14,950 件、合計約 16,900 件、参加人数は約 11,200,000 人となりました。国際会議場としてのこけら落としは、同年 7 月 5 日から 7 日まで 3 日間にわたって開催された「第 5 回日米貿易経済合同委員会」でした。当時の米国代表団からも高い称賛を頂き、この会議の成功により、当館は国際会議場として順調なスタートを切りました。

国際会議の参加者を日本文化でおもてなしするということから、昭和 42 年には茶室「宝松庵」が完成し、昭和 48 年には待望のプレスセンターも完成しました。しかしながら、その頃より、国際会議や学術会議等の大型化、専門化が顕著となり、それに伴い会議の形態にも変化の傾向が表れ始め、その結果、当時のスペースやキャパシティでは主催者の要望に十分応えられない状況が生じてきました。昭和 60 年にはイベントホール、また、平成 10 年にはアネックスホールが完成しましたが、世界各国における大型施設の建設や拡充はそれを超える早いスピードで進んでいきました。近年、世界、特にアジア太平洋地域においては、会議場や展示場等の施設拡張や都市のインフラが進み、国を挙げて MICE 誘致に向けての整備が行われています。その傾向は、国家間の競争でもあり、また、国際都市間での競争の激化と言っても過言ではありません。「唯一生き残ることができるのは変化に対応できるものである。」この言葉を重く受け止め、今度とも会館運営にあたっていかなければなりません。

待望のニューホールは、創立満 50 周年を前に、いよいよ今春より着工されます。

「京都議定書」の採択を始め、政治、経済、医学、科学技術、文化、環境保全等、数々の会議の舞台裏を支え続けて早や 50 年。世界規模での環境の変化、国を超えた危機管理意識が高まる中、50 年の歴史を誇りに、培ってきた経験と蓄積されたノウハウを生かし、これからも、ここに集われるすべての参加者の皆様に安心・安全を提供し、その笑顔を貴重な財産として邁進していきます。

I 法人の概況

1. 設立年月日

1966年（昭和41年）5月21日

2. 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- (2) 国際交流と日本文化の普及事業
- (3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

内閣府

5. 主たる事務所・従たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

従たる事務所：東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル419

II 事業の概況

「平成27年度業務推進計画」に基づき、以下の事業を実施しました。

1. 会議等の運営事業及び誘致状況

(1) 開催会議・催事一覧

① 主な国際会議・催事

	会議・催事名	開催期間	参加人数
1	公益社団法人日本青年会議所 2015 年度京都会議	1/22 ~ 1/25	14,000
2	第 38 回日本眼科手術学会学術総会	1/30 ~ 2/1	4,000
3	第 45 回日本心臓血管外科学会学術総会	2/16 ~ 2/18	2,000
4	第 89 回日本感染症学会総会・学術講演会	4/16 ~ 4/17	2,000
5	京都スマートシティエキスポ 2015	5/20 ~ 5/20	2,000
6	第 15 回国際放射線研究会議	5/25 ~ 5/30	1,200
7	東アジア地域包括的経済連携協定(RCEP)会合	6/8 ~ 6/13	700
8	第 37 回日本呼吸療法医学会学術集会 The 2nd Conference of Asia-Pacific Chapter of Extracorporeal Life Support Organization	7/17 ~ 7/19	2,700
9	第 17 回世界経済史会議	8/3 ~ 8/7	1,000
10	科学技術と人類の未来に関する 国際フォーラム(STSフォーラム) 第 12 回年次総会	10/3 ~ 10/6	1,200
11	第 53 回日本癌治療学会学術集会	10/29 ~ 10/31	10,000
12	第 31 回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11/10 ~ 11/12	3,400
13	第 5 回世界工学会議	11/28 ~ 12/4	3,200

②主な国内会議・催事

	会議・催事名	開催期間	参加人数
1	第18回日本病態栄養学会年次学術集会	1/10 ~ 1/11	5,000
2	第53回関西財界セミナー	2/5 ~ 2/6	600
3	第51回日本腹部救急医学会総会	3/5 ~ 3/6	2,000
4	第29回日本医学会総会 2015 関西	4/11 ~ 4/13	30,000
5	スミセイ ライフフォーラム 生きる 「浅田真央のにつぼんスマイル」トークライブ!	4/18 ~ 4/18	1,900
6	洛中悠楽 第30回 JOCP 全国大会	7/3 ~ 7/5	2,000
7	遊戯王ワールドチャンピオンシップ 2015	8/15 ~ 8/16	3,200
8	琳派 400 年記念 古典の日推進フォーラム 2015	11/1 ~ 11/1	1,812
9	第52回日本糖尿病学会近畿地方会	11/14 ~ 11/14	2,000
10	第29回京都府消防大会	11/15 ~ 11/15	2,000
11	学校法人京都産業大学 創立 50 周年記念式典	11/27 ~ 11/27	1,500
12	21 世紀鷹峯フォーラム “100 年後に残る工芸のために”シンポジウム	12/6 ~ 12/6	300

(2) 主要な会議開催状況について

①開催状況全般について

2014年秋の耐震補強工事を終え、安心とともに装いを新たに、数々の催事が開かれ、好評を博しました。

2015年は、前半においては、8年ぶりの本格的開催となった、日本最大の医学会「日本医学会総会」が関西広域に亘って開かれ、後半においては、琳派400年を記念すべく、京都のまち全体が一連のRIMPA関連イベントの色に染まった年となりました。とりわけ、その締め括りとも言える「琳派400年記念 古典の日推進フォーラム2015」が11月に、そして12月には、「21世紀鷹峯フォーラム “100年後に残る工芸のため

に”シンポジウム」が、ここ国際会館で開かれるなど、医学分野のみならず、芸術分野においても特記すべき催事が開催される一年となりました。文化芸術関係者とあわせて多数の一般参加もあり、市民が芸術に触れる機会と場を提供することとなりました。

②重要会議の開催状況について

(ア) 第29回日本医学会総会 2015 関西

2月から4月、大阪、神戸そして京都の三都市において、第29回日本医学会総会 2015 関西が、「医学と医療の革新を目指して—健康社会と共に生きるきずなの構築」をメインテーマに、関西2府4県の「12医科大学／1機関／6医師会」の協同によって開催されました。

医学及び医学関連領域の重要課題が総合的に討論されただけでなく、一部の講演は企業関係者・一般市民にも開放され、約30,000名の参加のもとに開かれた第29回総会は、医学会総会の歴史に残るものとなりました。



(イ) 東アジア地域包括的経済連携協定(RCEP)会合

広域経済連携による自由貿易協定の重要性が高まる中、ASEANの提唱によって2011年にRCEPの交渉が立ちあげられました。第8回目となる高級実務者レベルの会合が日本で開かれることとなり、その誘致に成功しました。16カ国の政府関係者など約700名の参加のもと、7日間に亘って開かれた交渉会合は、最終日の交渉が翌日未明にまで延長されるなど、連日活発な議論が交わされました。

また、昼食時には各参加国の名物料理を日替りで提供するなどの工夫も好評を博し、国際会館での開催に高い評価をいただきました。

※ Regional Comprehensive Economic Partnership(RCEP):

ASEAN10カ国(ブルネイ・カンボジア・インドネシア・ラオス・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイ・ベトナム)と6カ国(日本・中国・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・インド)が参加する広域経済連携



(ウ) 第5回世界工学会議

日本で初めて開催された世界工学会議は、世界工学団体連盟（WFE0）が4年に1度開催する会議で、錦秋の京都に約3,000名を超える世界の工学者が集まりました。

皇太子殿下のご臨席のもとで開かれた開会式に続き、「社会のための工学」の視座に立った数々のセッションでは、工学のあらゆる分野を横断した技術の進化と社会への貢献についての議論がなされました。

会議では、「工学は、温暖化を加速する二酸化炭素（CO₂）排出を削減するために、その力をしっかり生かさなければならない」などとする「京都宣言」が採択され、京都から世界にメッセージが発信され、その全日程を終了しました。



(エ) 21世紀鷹峯フォーラム“100年後に残る工芸のために”シンポジウム

「琳派400年」に盛り上がった一年が終盤に差し掛かった12月、京都そして日本で工芸に関わる多種多彩な方々が集まり、「100年後の工芸のために」意見交換が行われました。

「日本最初の芸術村」とも称される、洛北の地・鷹峯が育んだ日本の工芸は、世界に誇るべきものであります。使い手の視点を直接反映して本阿弥光悦が生み出した工芸を100年の後にも継承してゆくため、工芸の都である京都の地において「京都提言」が発表されました。つくり手、よい使い手、鑑賞者

の連携がはかれることにより、工芸を大切に引き継いでゆく動きが大きく前に進むことが期待されます。



(3) 重要会議の誘致状況

①誘致活動全般について

平成 27 年 4 月より誘致・予約課を発足し、海外へのプロモーションを本格化する準備を整えました。

これまでは、JNTO（日本政府観光局）や KCVB（京都文化交流コンベンションビューロー）を経由して、海外主催者からの問合せが入ることが多くみられましたが、最近では国際会館への直接の連絡が増える傾向があります。その際に提出する企画書を、国際会館独自に行うための誘致ツールとして企画提案資料（英語バージョン・パワーポイント）のモデルを作製しました。これらを武器にし、国際会議の事務局機能を受託する、あるいは開催地の決定権限を有する「コア PCO (Professional Congress Organizer)」と呼ばれる海外機関などにアプローチする準備を進めました。

また、「京都プレミアム貸切りパーティー」と称したガーデンパーティープランの企画をトラベルエージェントのパンフレットに掲載し、今年 4 月から 1 年間、国際会館を積極的に PR し、インセンティブ等の企業需要にも販路を拡大する策を講じました。国際会館の最大の魅力である日本庭園を前面に押し出すことにより、新しい顧客の確保を目指しています。

②重要会議の誘致状況について

(ア) 第 25 回世界博物館大会

2015 年 6 月にパリで開催された国際博物館会議（ICOM: The International Council of Museums）の諮問委員会において、2019 年の京都開催が決定しました。日本政府（国土交通省、観光庁、日本政府観光局（JNTO））と京都府・京都市をはじめとするオール京都が一丸となって進めてきた誘致活動が功を

奏して、米国シンシナティとの競合に打ち勝ったものです。

117 カ国から専門家を中心に 2,500 名の参加が予定される同会議は、200 以上の多種多様な博物館・美術館がある京都において、市民レベルをまきこんで博物館の社会的役割や必要性の再認識を行う絶好の機会となるものです。

(イ) **アルツハイマー病協会国際会議**

開催日：2017 年 4 月 25 日～29 日

参加者数：4,000 名（海外 71 カ国 500 名 国内 3,500 名）

主催：公益社団法人認知症の人と家族の会

備考：2015 年 9 月に決定。

(ウ) **TERMIS-AP 2018**

開催日：2018 年 9 月 4 日～7 日

参加者数：2,600 名（海外・国内合せて）

主催：日本再生医療学会

備考：TERMIS ⇒ Tissue Engineering International & Regenerative

Medicine Society（通称：テルミス、内容：再生医療に関する国際会議）

(エ) **第 14 回国連犯罪防止・刑事司法会議**

2015 年 4 月、カタールのドーハで開かれた会議において、2020 年の日本開催が決定（1970 年の京都開催以来 50 年振りの日本開催）しました。それを受け、京都府・京都市、そしてコンベンションビューローとともに京都への誘致活動を本格化させています。会議は国連主催により、約 140 カ国から、司法大臣や検事総長を含む政府の代表及び NGO 関係者、計約 5,000 名の参加が見込まれるため、施設の規模も開催都市決定の重要な要素の一つとなっています。

横浜、神戸などの都市も誘致に積極的であり、引き続き京都誘致に取り組む予定です。

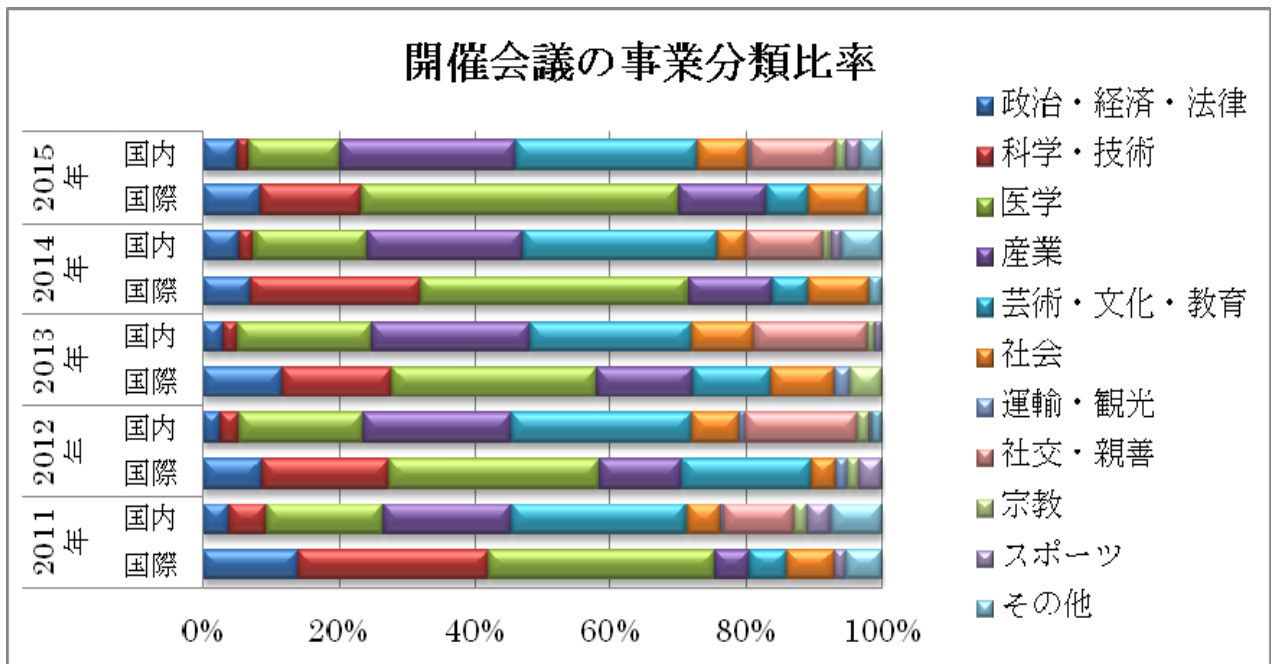
(4) 会議開催状況に関するデータ一覧

①開催件数と参加者数

国際・国内	件数 ・参加人数	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
国際会議	開催件数	57	58	43	56	47
	参加人数	65,841	89,180	72,617	86,792	73,180
国内会議	開催件数	202	224	192	186	188
	参加人数	136,796	170,145	199,714	159,155	167,605
合計	開催件数	259	282	235	242	235
	参加人数	202,637	259,325	272,331	245,947	240,785

②開催会議等の事業分類

事業分類	2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
	国際	国内	国際	国内	国際	国内	国際	国内	国際	国内
政治・経済・法律	8	8	5	6	5	6	4	10	4	10
科学・技術	16	11	11	6	7	4	14	4	7	3
医学	19	35	18	41	13	38	22	31	22	25
産業	3	38	7	49	6	45	7	43	6	49
芸術・文化・教育	3	52	11	59	5	45	3	53	3	50
社会	4	10	2	16	4	18	5	8	4	14
運輸・観光	-	1	1	2	1	-	-	-	-	1
社交・親善	-	21	-	37	-	32	-	21	-	23
宗教	-	4	1	4	2	2	-	2	-	3
スポーツ	1	7	2	1	-	2	-	3	-	4
その他	3	15	-	3	-	-	1	11	1	6
開催件数合計	57	202	58	224	43	192	56	186	47	188



③主な会場の稼働日数

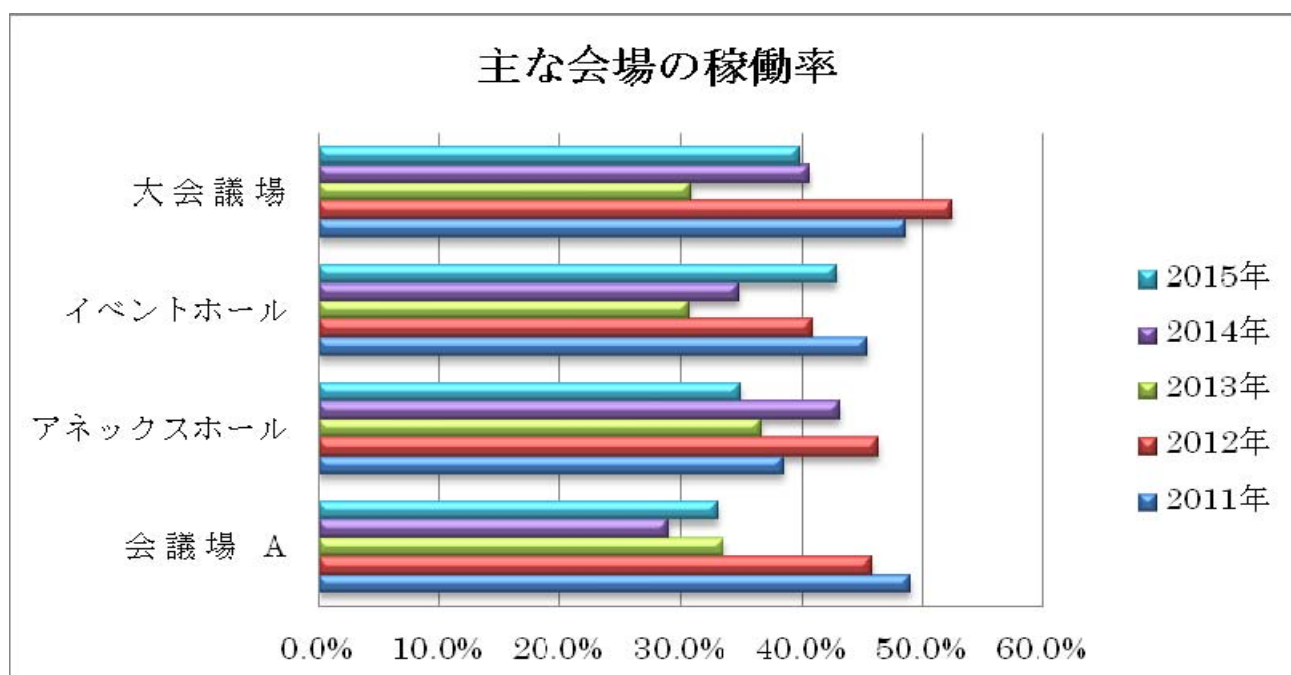
会場名	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
大会議場	151	167	110	83	142
会議場 A	150	145	72	103	118
会議場 B-1	132	124	86	101	104
会議場 B-2	117	125	85	96	95
会議場 C-1	99	137	95	91	91
会議場 C-2	119	131	100	92	94
会議場 D	139	144	111	99	116
イベントホール	143	126	109	124	153
アネックスホール	116	148	130	154	125
合計	1,166	1,247	898	943	1,038

④主な会場の稼働率

会場名	2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
	稼働日数	率(%)	稼働日数	率(%)	稼働日数	率(%)	稼働日数	率(%)	稼働日数	率(%)
大会議場	151	48.7	167	52.5	110	30.9	83	40.6	142	39.8
イベントホール	143	45.5	126	40.9	109	30.7	124	34.8	153	42.9
アネックスホール	116	38.5	148	46.3	130	36.6	154	43.2	125	35.0
会議場 A	150	49.0	145	45.9	72	33.6	103	28.9	118	33.1

稼働率=稼働日数÷営業日(365日-休館日8日)

※2013年の会議場A、2014年の大会議場はそれぞれ分母より耐震工事日数141日、152日を減じています。



2. 会館施設の整備及び拡充に向けた取り組みについて

(1) 既存施設の整備状況

建物の耐震改修を終え、平成 27 年度は、設備機器類の維持管理に係るオーバーホール、更新等を実施しました。

【財務省普通財産維持費予算】

➤ 吸収式冷温水発生機補修工事（3 台）

昨年に引き続き、冷暖房用熱源装置としての吸収式冷温水発生機の分解点検整備を実施し、全 4 台の整備を完了しました。

【当財団資産取得事業予算等】

➤ ネットワーク機器の更新

催事で使用する無線 LAN 等のネットワーク機器を更新しました。

➤ 防災モニター設備の更新

経年劣化した防災監視システムの監視モニター機器を更新しました。

➤ コンベンションシステムの更新

予約・精算等に係るコンピューターのソフトウェア等を更新しました。

➤ コージェネレーション排ガスボイラーの改修

長期的な光熱費節減のため、故障・停止していたコージェネレーションシステムの排熱を利用した発電用ボイラーを修理しました。

(2) ニューホールの整備

平成 27 年度は、国においてニューホールの設計等が進められるとともに、当財団では、京都らしい設えの具体化に向けた取組等を進めました。

【国における取組状況】

ニューホールの整備につきましては、国土交通省近畿地方整備局において、当初の予定どおり本年 3 月末には着工され、平成 30 年 6 月頃までに竣工される予定となっております。

(国の事業概要)

2,000 m² (2,500 人規模) のホールを有する多目的展示施設
鉄骨鉄筋コンクリート造地上 2 階建
28 年度予算 (案) : 工事費 8 億 2,300 万円 ほか (工事監理費)
総事業費 : 33 億 200 万円 (26~30 年度)

【当財団における取組状況】

当財団の資産取得事業の一環として、昨年から京都市と連携して取り組んでおります「京都らしい設え」の内装の設計業務につきましては、伝統建築や伝統工芸分野の有識者の方からご意見をお聴きしてまとめた基本コンセプトに基づき、使用する素材等の選定を進めるなど、現在、国の施設設計業者と同じ設計業者において具体化に向けた作業を進めております。

さらに、これまでから要望してきた4,000㎡（5,000人規模）のホールへの拡充につきましても、引き続き、国にあらゆる機会を捉えて働き掛け、できる限り早期の実現に向けた一層の理解と協力を求めています。

3. コンプライアンスについて

(1) 法令順守に対する意識向上を目的とした研修の実施

昨年に引き続き、「コンプライアンスとハラスメント」をテーマとした講習会を実施しました。本年は、弁護士の講師を迎えることで、同テーマを経営問題として捉えるという、昨年とは別の切り口から学ぶ機会を設けました。これにより、法令順守は事業活動を行う上で必須事項であるという意識付けを行いました。

(2) マイナンバー制度に係る規定の制定

平成28年からマイナンバー制度が導入されるにあたり、当財団として、個人番号確認書類の厳重な取扱い方法等を定めた「特定個人情報等取扱規程」を制定しました。

また、本規定に関する職員向け説明会も実施することで、同規程の遵守徹底を促しました。

(3) 調達審査委員会の開催

平成26年9月に設置した館長を委員長とする「調達審査委員会」を開催するなどにより、契約手続きの透明性の一層の確保に努めています。

【調達審査委員会の開催状況】

回 ・ 日	内 容
第 7 回 平成 27 年 7 月 15 日	「清掃」、「電気設備の保守管理」等の管理業務に係る契約手続きの見直しなどについての審議

4. 人材育成について

(1) 人材育成研修の実施

時代の変化に柔軟に対応できる、チャレンジ精神を持った人材を育成すべく、外部機関を利用し、上期には、当財団の課題等を客観的に把握することを目的とした組織活性度調査及び報告会を実施しました。下期においては、同調査から導出された課題を踏まえ、これらの課題に対する解決を目指した具体的なアクションプランの立案方法を学ぶ研修を実施しました。

なお、平成 27 年度に採用した新入職員向けには、社会人としての基礎知識や業界に関する基礎知識、または当財団業務における基礎知識の習得を柱とした研修プログラムを、外部講習や他施設の視察、OJT 等を通じて実施しました。

(2) 情報交換会の開催

国際問題や経済問題、あるいは学芸術等の多岐に亘るテーマについて、有識者の方々を講師にお招きして講演会・意見交換会を実施しました。これ以外にも、当館での開催会議と関連する実践的なテーマを扱った講演会も実施し、一般教養並びに専門知識に対する見識の向上を図りました。

(3) 新人事評価制度の策定

平成 28 年度より、業績の達成及び能力の向上に対する職員のモチベーションを引き出すことを目的とした新たな人事評価制度を導入するにあたり、課題に対する目標を具体的に設定させた上で、その成果を客観的に評価する「業務評価表」と、各役職に求める能力を明確にした上で評価する「能力評価表」の 2 部構成とした人事評価制度を策定しました。

5. 危機管理体制の強化について

(1) 災害時における備蓄物資の受入について

京都市と当財団とで締結した「災害発生時における応急対策活動に関する協定書」に基づき、備蓄物資受入に関する協議を京都市と進めていきました。その際、非常時におけるリスク分散の観点から、複数箇所の備蓄物資の保管スペースを確保した上で、京都市による実査を済ませました。京都市により、当館への物資の割当数量が確定後、平成28年3月までに物資が備蓄される予定です。

(2) 原子力災害時における広域避難への協力について

当館を原子力災害時における広域避難場所とする協定を、当該避難場所として受け入れる上での条件を協議・反映させた上で、要請先である京都府との間で締結しました。

(3) AEDの増設について

国際会議や大型催事、一般市民向けのイベント等での外国人や、家族連れの参加者が増えることを想定し、「英語版」と「子供用」のAEDを導入しました。

6. 自主企画事業について

(1) 桜・さくらスペシャルディズ 2015

開催日：2015年4月4日～5日

参加者数：約3,800名

桜に囲まれた宴会場さくらでのアンサンブルコンサート、レストラングリルでのスペシャルランチの提供や呈茶席など、様々な企画を盛り込んだ内容で実施しました。天候にも恵まれ、予想をはるかに上回る参加者が集いました。



(2) 第59回春の宝松庵茶会・第60回秋の宝松庵茶会

開催日：2015年4月29日（春）、平成27年11月15日（秋）

参加者数：約700名（春）、約600名（秋）

茶会にあわせて、春には、京都市国際交流協会から参加した留学生に館内見学会を実施し、秋には、植物で染めたハンカチや糸の代わりに手で裂いた布を用いる裂き織りカフェマットの実演などを体験するプログラムを実施しました。



(3) 乾杯の夕べ2015 ～Ciao イタリア！～

開催日：2015年8月1日

参加者数：約2,000名

真夏の恒例行事、当財団主催のガーデンパーティで、今年はイタリアをテーマ国として開催しました。1日開催にもかかわらず、約2千人の参加者が集まりました。食事には、当日限定の弁当のほか、京都の人気イタリア料理店による屋台料理を提供しました。また、イタリア文化紹介コーナーでは、世界文化遺産の写真展示やオリーブオイル&ワインセミナー、イタリア語講座などを行い、その他に、水上ステ

ージではギター弾き語りや大抽選会など、多彩なイベントを開催しました。フィナーレには、打ち上げ花火とレーザー映像を組み合わせた光のアートにより締めくくりました。年々来場者が増え、夏の風物詩として定着されつつあります。



(4) 京都・フィレンツェ姉妹都市提携 50 周年記念 児童絵画展 ～京都国際会館から世界へ～

開催日：2015 年 8 月 1 日

「乾杯の夕べ」同時開催イベントとして、京都・フィレンツェ両市の子供たちの絵画作品約 110 点を展示し、地元在住の子供連れの家族をはじめ、多くの市民が鑑賞に訪れました。また、イタリアの絵本展示や、イタリア人女性による絵本の読み語り等のプログラムを設けることで、子供たちに国際交流を体験する機会を提供しました。



(5) ICC Kyoto 国連シリーズ 1 国連創設 70 周年 2015 国連デー記念シンポジウム「日本と国連」 -京都から世界平和を願って-

開催日：2015年10月25日

参加者数：約200名

国立京都国際会館では、自主企画「ICC Kyoto 国連シリーズ1」として、日本国際連合協会京都本部と共同主催で、10月25日に国連創設70周年2015国連デー記念シンポジウム「日本と国連」-京都から世界平和を願って-を開催しました。当シンポジウムは、元国連大使による「70周年を迎えた国連の可能性と限界」をテーマとする基調講演で始まりました。

1部のパネルディスカッションには、コーディネーターに同元国連大使を迎え、「日本と国連-京都から世界平和を願って-」をテーマに、有識者3名による討論が行われました。

2部は、「若者へのメッセージ-Think Globally, Act Locally-」と題し、国連関連機関、大学、企業やNPO法人からなる有識者4名によるディスカッションが行われ、参加者との質疑応答の場も設けられました。

事前申し込みと当日参加を合わせ、合計で約200名の参加があり、参加者からは、たいへん有意義なシンポジウムだったという感想がありました。



(6) ICC Kyoto 国連シリーズ2

国連創設70周年記念シンポジウム～未来を担う若者たちへ～

開催日：2015年12月12日

参加者数：約1,200名

国立京都国際会館では、自主企画事業「ICC Kyoto 国連シリーズ2」として、12月12日に「国連創設70周年記念シンポジウム～未来を担う若者たちへ～」を開催しました。

当シンポジウムは、元国連事務次長 明石康氏による「国連とともに歩んだ人生」をテーマとした基調講演で始まり、国連職員としての人生を歩むことになったきっかけや国連の役割等についてのお話がありました。

続いて、コーディネーターにマスコミ有識者を迎え、学生代表4名と明石 康氏に

よるクロストークを行いました。ここでは、異文化理解について、また、世界の平和構築に向けてすべきこと等について話し合いがされました。

学生代表は自身の経験や興味、研究分野につなげて話題を深めていきました。

当シンポジウムのサブタイトル「～未来を担う若者たちへ～」にあるように、中学生や高校生、大学生を中心に約1,200名もの参加者が集まりました。



7. 広報の充実について

(1) 広報誌の発行

開かれた国際会館を目指して、当財団の情報発信と会議誘致のための広報誌「ICC Kyoto」を日本語版年4回、英語版年1回を発行しました。

(2) 小学生や高校生を対象とした見学会の開催

未来のグローバル人材育成に貢献するため、昨年引き続き近隣の小学校や関西の高校生を対象に見学会を実施しました。

Ⅲ 理事会及び評議員会等に関する事項

1. 理事会及び役員に関する事項

(1) 理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第101回 理事会	平成27年3月9日 午前11時～12時 会館510会議室	第1号議案 平成26年度事業報告及び決算の件 第2号議案 第24回評議員会招集の件 報告事項 (1)「第4回役員等候補選出委員会（2月16日開催）」 の結果概要について (2)会館施設拡充に係る最近の状況について (3)中長期計画について (4)業務推進計画について (5)会場使用料金について
第102回 理事会	平成27年12月11日 午前11時～12時 会館510会議室	第1号議案 平成28年度事業計画及び収支予算の件 報告事項 (1)ニューホール整備の進捗状況について (2)主要大型国際会議の開催決定状況について

(2) 役員の変動

氏名	異動年月日
井上 正幸	平成 27 年 3 月 24 日 重任
上村 多恵子	平成 27 年 3 月 24 日 重任
谷野 作太郎	平成 27 年 3 月 24 日 重任
堀木 エリ子	平成 27 年 3 月 24 日 重任
堀場 厚	平成 27 年 3 月 24 日 重任
松下 正幸	平成 27 年 3 月 24 日 重任
松本 紘	平成 27 年 3 月 24 日 辞任
山岡 義生	平成 27 年 3 月 24 日 重任
山極 壽一	平成 27 年 3 月 24 日 就任
大宮 正	平成 27 年 3 月 24 日 重任
西田 憲司	平成 27 年 3 月 24 日 重任

(3) 役員氏名

※ (理事長・副理事長・常任理事・理事・監事の順で) 五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	稲盛 和夫	理事	堀木 エリ子
副理事長	村田 純一	理事	堀場 厚
常任理事	木下 博夫	理事	松下 正幸
理事	井上 正幸	理事	山岡 義生
理事	上村 多恵子	理事	山極 壽一
理事	門川 大作	理事	山田 啓二
理事	立石 義雄	監事	大宮 正
理事	谷野 作太郎	監事	西田 憲司

理事長 1 名 副理事長 1 名 常任理事 1 名 理事 11 名 監事 2 名 計 16 名 (平成 27 年 12 月末日現在)

2. 評議員会及び評議員に関する事項

(1) 評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第24回評議員会	平成27年3月24日 午前11時～12時 会館510会議室	第1号議案 平成26年度事業報告及び決算の件 第2号議案 理事、監事、評議員の選任の件 第3号議案 評議員会議長選任の件 第4号議案 役員等候補選出委員会委員選任の件 第5号議案 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の改定の件 報告事項 (1) 会館施設拡充に係る最近の状況について (2) 中長期計画について (3) 業務推進計画について (4) 会場使用料金について

(2) 評議員の異動

氏名	異動年月日
明石 康	平成27年3月24日 重任
阿南・カージニア・史代	平成27年3月24日 重任
池坊 由紀	平成27年3月24日 重任
井村 裕夫	平成27年3月24日 重任
内海 善雄	平成27年3月24日 重任
大倉 治彦	平成27年3月24日 重任
小倉 和夫	平成27年3月24日 重任
柏原 康夫	平成27年3月24日 重任

茅 陽一	平成 27 年 3 月 24 日 重任
小村 武	平成 27 年 3 月 24 日 重任
齊藤 修	平成 27 年 3 月 24 日 重任
齊藤 行巨	平成 27 年 3 月 24 日 重任
坂本 吉弘	平成 27 年 3 月 24 日 重任
千 宗員	平成 27 年 3 月 24 日 重任
千 容子	平成 27 年 3 月 24 日 重任
塚本 稔	平成 27 年 3 月 24 日 重任
手嶋 龍一	平成 27 年 3 月 24 日 重任
寺島 実郎	平成 27 年 3 月 24 日 重任
中尾 一和	平成 27 年 3 月 24 日 重任
服部 重彦	平成 27 年 3 月 24 日 重任
松山 良一	平成 27 年 3 月 24 日 重任
山下 晃正	平成 27 年 3 月 24 日 重任
吉村 彰彦	平成 27 年 3 月 24 日 重任

(3) 評議員氏名

※五十音順

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
議 長	明石 康	評 議 員	坂本 吉弘
評 議 員	阿南・ウァージニア・史代	評 議 員	千 宗員
評 議 員	池坊 由紀	評 議 員	千 容子
評 議 員	井村 裕夫	評 議 員	塚本 稔
評 議 員	内海 善雄	評 議 員	手嶋 龍一
評 議 員	大倉 治彦	評 議 員	寺島 実郎
評 議 員	小倉 和夫	評 議 員	中尾 一和
評 議 員	柏原 康夫	評 議 員	服部 重彦
評 議 員	茅 陽一	評 議 員	松山 良一
評 議 員	小村 武	評 議 員	山下 晃正
評 議 員	齊藤 修	評 議 員	吉村 彰彦
評 議 員	齊藤 行巨		

評議員 計 23 名

(平成 27 年 12 月末日現在)

3. 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

(1) 役員等候補選出委員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第4回 役員等候補選出委員会	平成27年2月16日 午前11時～12時 会館662号室	第1号議案 理事候補者選出の件
		第2号議案 監事候補者選出の件
		第3号議案 評議員候補者選出の件

(2) 委員の異動

氏名	異動年月日
明石 康	平成27年3月24日 重任
井村 裕夫	平成27年3月24日 重任
小村 武	平成27年3月24日 重任
齊藤 修	平成27年3月24日 重任
塚本 稔	平成27年3月24日 重任
服部 重彦	平成27年3月24日 重任
山下 晃正	平成27年3月24日 重任

(3) 委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員長	明石 康
委員	井村 裕夫
委員	小村 武
委員	齊藤 修
委員	塚本 稔
委員	服部 重彦
委員	山下 晃正

委員長1名 委員6名 計7名（平成27年12月末日現在）

IV 庶務事項に関する事項

1. 施設の管理再委託契約に関する事項

当公益財団法人と京都市が締結している管理再委託契約の施設の内容は次のとおり。

（注：国と京都市との間で国有財産管理委託契約を締結）

区 分	種 目	名 称	数 量	価 格
土 地	宅 地		156,096.77 m ²	4,897,485,158 円
立 木 竹	樹 木		798 本	22,930,077
建 物	事務所建	会 議 場	14,693.54 m ²	2,189,119,764
			37,786.48	
	事務所建	展 示 場	4,860.69	452,369,785
			7,976.58	
	雑屋建	車 寄	126.11	4,809,554
			126.11	
	雑屋建	ポンプ室	189.93	11,565,405
			189.93	
	雑屋建	渡 廊 下 (連絡歩廊)	449.76	38,360,426
			449.76	
	雑屋建	渡 廊 下 (連絡歩道橋)	188.24	43,510,685
			188.24	
	雑屋建	渡 廊 下 (既設地下鉄 出入口上屋)	9.33	3,462,921
9.33				
車庫建	ごみ容器置場	16.43	355,118	
		16.43		
計		20,534.03	2,743,553,658	
		46,742.86		
工 作 物			一 式	1,751,646,246
	合 計			9,415,615,139

2. 休館日に関する事項

平成27年度中に、次の日を休館とした。

1月 1日(木)～4日(日) 4日間 年始休館
12月28日(月)～31日(木) 4日間 年末休館

3. 事務局職員に関する事項

区 分	男	女	合 計
館長(常任理事)	1	0	1
事 務 局 長	1	0	1
副 事 務 局 長	1	0	1
総 務・企 画 部	8	7	15
施 設 部	10(1)	1	11
営 業 推 進 部	10(1)	6	16
合 計	31	14	45

(1):うち2名は出向者(平成27年12月末日現在)

V 収支状況

1. 平成 27 年度収支状況について

収入については、積極的な誘致活動を展開する等収入増に取り組んだ結果、経常収入は 1,499 百万円（前年度比 230 百万円の増加、予算対比では 33 百万円の増加）となりました。

支出については、会場設営、清掃、館内案内、警備、電気機械保守等の年間委託契約費を平成 26 年度に続き各 10%程度削減する等経費削減に努めた結果、経常費用の合計は 1,517 百万円（前年度比 147 百万円の増加、予算対比では 3 百万円の増加）となりました。

上記の結果、平成 27 年度の経常収支は 18 百万円の損失（前年度比 83 百万円の増益、予算対比では 30 百万円の増益）となりました。